

訪問看護サービスの利用者毎に受け持ち訪問看護師が評価した、連携のしやすさと利用者へのケアにおける目標達成度との関連

著者	阪井 万裕
学位授与年月日	2016-03-24
URL	http://doi.org/10.15083/00073829

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 阪井 万裕

本研究は、訪問看護サービス利用者の受け持ち訪問看護師が評価した、受け持ち訪問看護師以外の専門職との連携のしやすさが、目標の達成に向けて行うケアの特徴によって、利用者へのケアにおける目標の達成度にどのように関連するのかを明らかにするため、質問紙調査とインタビュー調査を行ったもので、下記の結果を得ている。

1. 訪問看護師が利用者に立案する目標には、【生活支援】を行う目標と【処置観察】を行う目標があった。
2. 【生活支援】の目標では、受け持ち訪問看護師が連携しやすいと感じているほど、利用者の目標が達成されていることが明らかになった。一方、【処置観察】の目標では、連携のしやすさと目標達成度に関連がなかった。
3. その理由として、【処置観察】の目標には、連携しにくい場合でも訪問看護師のみで対応でき達成された目標があることや、連携しやすい場合でも利用者に避けられない状態の悪化があり達成されなかった目標があることが影響していることが考察された。

以上、本論文は、受け持ち訪問看護師が受け持ち訪問看護師以外の専門職と連携しやすいことが、どのような目標の場合に利用者に立案された目標の達成度を高めるのにより効果的であるのかについて量的・質的な研究手法を用いることで明らかにした初めての研究である。本研究は、訪問看護サービスの利用者に対するケアの質向上に向けた、訪問看護師によるケア介入方策を具体的に提示するものであり、これらの知見は今後の訪問看護の発展に資するものと期待され、学位の授与に値するものと考えられる。